

2-3 婦人科：手術検体

- ・子宮は前面でY時に開き、固定用貼り付け板に貼り付けて固定してください。
- ・貼り付けに使用する板は、ゴム板が推奨されます。
検体を貼り付けた面を上にして、固定容器に沈めてください。
- ・子宮頸部円錐切除検体は、割を入れ、開いた状態で提出してください。
また、粘膜面を上にして板に貼り付け、ホルマリン固定をおこなってください。
- ・子宮頸部円錐切除検体では、割を入れた部位（何時方向で開いたか）を依頼書に記載してください。
- ・胎盤は十分な大きさの固定容器を使用し、折り畳んだり丸めたりせず、形を整えてホルマリン固定してください。
- ・胎盤・子宮内容物は、依頼書に妊娠週数をご記載ください。
- ・胎児については、妊娠12週以降（妊娠4か月以上）は死産となり、病理組織検査として受け付けることができません。
- ・検体が固定液に浮いてしまう場合は、液面にガーゼ等を広げてかぶせてください。
スポンジ素材の青い貼り付け板も使用可能です。
- ・検体の上にゴム板を乗せ、固定容器に沈める操作はご遠慮ください。
検体がつぶれて変形し、適切な標本作製がおこなえなくなる可能性があります。
- ・遺伝子検査やコンパニオン診断に関連して、ホルマリン固定時間の管理が必要になります。ホルマリン固定をおこなった日時の記録にご協力ください。

×NG事例

- ・子宮が開かれていない（左右・前後が判断できない）
- ・円錐切除検体が丸まっている（貼り付けられていない）

2-4 婦人科：生検検体

- ・材料名は、「子宮内膜」「子宮頸部」「子宮腔部」「子宮腔部頸部」から選択し、ご記載ください。「子宮」は選択しないようお願いいたします。
- ・内膜生検の場合、材料名は「子宮内膜」とご記載ください。
「子宮内容」とは異なりますので、ご注意ください。
- ・子宮頸部・腔部生検の場合、採取部位（何時方向の検体か）をご記載ください。
- ・組織が十分採取できていない可能性のある場合（微小検体・ほとんどが粘液で組織不明瞭など）は、依頼書にご記載ください。

2-5 乳腺：手術検体

- ・ 左右の検体を同時に提出する場合、オーダーは分けてください。
- ・ 依頼書には病変部やオリエンテーションがわかるシェーマをご記載ください。
- ・ マーキング糸等で、検体の方向が確認できるようにしてください。
また、依頼書のシェーマに図示してください。
- ・ 大きな摘出検体の場合、そのままホルマリンに浸漬しても、内部まで固定液が浸透しません。病変部が固定不良となり、免疫染色や遺伝子検査の結果に影響が出る可能性があります。ホルマリンの注入固定や割を入れての固定が推奨されます。
- ・ 検体が固定液に浮いてしまう場合は、液面にガーゼ等を広げてかぶせてください。スポンジ素材の青い貼り付け板も使用可能です。
- ・ 遺伝子検査やコンパニオン診断に関連して、ホルマリン固定時間の管理が必要になります。ホルマリン固定をおこなった日時の記録にご協力ください。

推奨される固定時間については日本病理学会発行のゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規定 (https://pathology.or.jp/genome_med/elearning.html) をご参照ください。

2-6 乳腺：生検検体

- ・ 左右の検体を同時に提出する場合、オーダーは分けてください。
- ・ 検体は伸展して濾紙に貼り付け、固定容器に入れる方法が推奨されています。
その際、検体の乾燥にご注意ください。
- ・ 採取部位が異なる場合、部位ごとに容器を分けての提出をお願いいたします。
濾紙に番号を記載しても、検体は濾紙からはがれる場合があります。
- ・ 同一部位から採取された検体は、1 容器にまとめて提出が可能です。が、何個の検体が入っているか、検体数をご記載ください。

例) 同一部位より 3 回採取、濾紙 3 枚にそれぞれ検体を貼り付け、1 容器に
まとめて提出 ⇒ 「検体数 3、容器数 1」

- ・ 組織が十分採取できていない可能性のある検体については、依頼書にご記載ください。
- ・ 遺伝子検査やコンパニオン診断に関連して、ホルマリン固定時間の管理が必要になります。ホルマリン固定をおこなった日時の記録にご協力ください。

推奨される固定時間については日本病理学会発行のゲノム研究用・診療用病理組織検体取扱い規定 (https://pathology.or.jp/genome_med/elearning.html) をご参照ください。